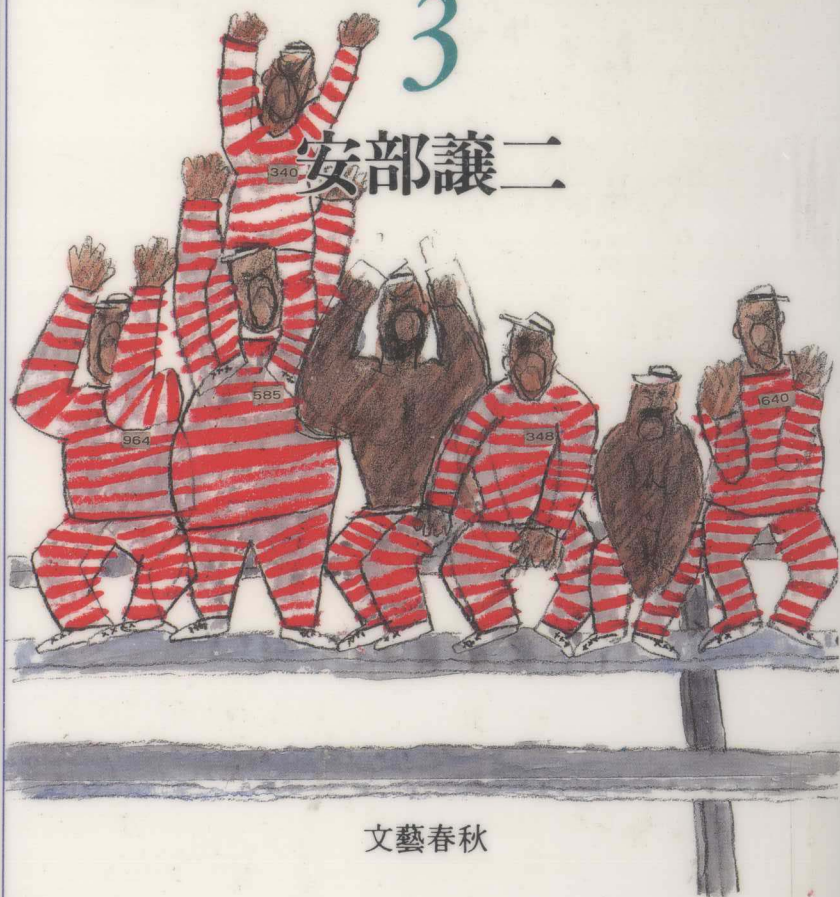


塀の中の こ 懲りない面々

3

安部譲二

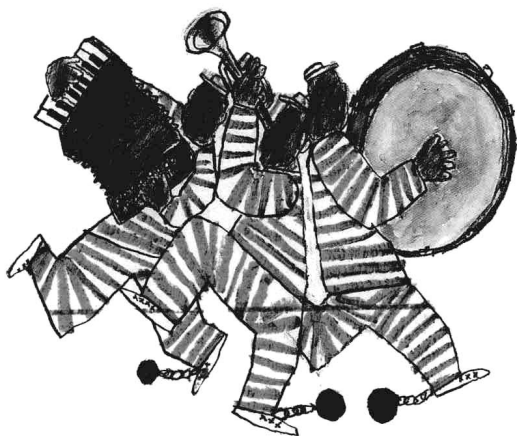


文藝春秋

塀の中の 懲^こりない面々

安部譲二

3



文藝春秋

塀の中の懲りない面々 3

一九九四年八月十日 第一刷

著者 安部 譲二

発行者 堤 堯

発行所 株式会社 文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町三―二三
電話 東京(三三六五) 一二二一

郵便番号 一〇二

印刷所 大日本印刷

製本所 矢嶋製本

定価はカバーに表示してあります

※万一落丁・乱丁の場合は送料当社負担でお取替えいたします。
小社営業部宛お送りください。

塀の中の懲りない面々 3 ◆ 目次

塀の中では話一分で聞いておけ 11

盗っ人「仙人」が描いた絵図面 19

皆ゴロツキになっちゃった 22

「ドアゴ」の演歌人生 28

単純作業を楽しむコツ 39

喧嘩五郎の隠し味 45

陽気な人殺し 51

奇妙な招待状 57

鮪は重過ぎた 63

逆転勝ちの人生 69

選挙ゲリラ 75

ある日、熊が一頭、ノソリと塀の中に…… 86

どうぞ、奥様御用心 92

十五年ぶりの義理場 98

地見屋は何を見てしまったか 104

日本人の「外人懲役」 110

ラシアン・ルーレット 116

ヒットマンはケーキ職人 122

私がとり逃した男 128

私の特約販売人 134

漁師が網を入れる塀の中 140

暗黒街のエリート・コース 146

小指の先がひと節ない公認会計士がいたら、それは…… 152

俺の車券ノンで、何人もノミ屋が死んだよ 158

お坊様ヤクザ 164

ヤクザ生命をかけたシヨート・フック 170

坂本親分の秘密兵器 176

けだものの瞳 182

彫千のつくった花札 188

半値の八掛け二割引き 194

塀の中のピアノ弾き 200

馬が可愛くなった若い衆 206

塀の中の水虫博士 212

戦争の傷跡 218

だって俺、見たんだもん 224

三角形の麻雀卓 230

チンピラの車を泥棒が盗み損った話 236

堅気の酒とゴロツキの覚醒剤 242

アカアラングで儲けた男 248

人種問題の根本的解消策 254

神さま仏さまを総動員した噂 260

ミミズクとフクロウの違い 266

「叫ぶ男」の正体 272

見たことある風景 278

少年院脱走仲間の困ったクセ 284

カレー物語

290

文章を書いている。本はまだない……頃の話
あとがきにかえて

296

A 装
D 画
坂 船
田 久
政 保
則 直
樹

塀の中の懲りない面々 3

塀の中では話一分で聞いておけ

懲役は皆、程度と腕に違いはあっても、「嘘つき」なのですが、塀の中では、それを一概に悪いこととは決めつけません。

真実ではないことを言うのが嘘でも、その種類や質のよしあしには、場面に従ってほとんど無限に近い変化があつて、その効用も知っているからです。

「嘘というのは、たとえば酒のようなものだ」

と、ある時、仙人という^{あだな}紳名の泥棒爺さんが私に言いました。

酒も上手に飲めば百薬の長で、間違えば気違い水なのだが、嘘も同じだから、使いようだという仙人の持論です。

これは本当におっしゃるとおりで、特に、荒くれ者が自由を奪われて閉じ籠められている塀の中では、嘘で懲役が死ぬこともあれば、倖せになることもあるのですから、これはとても大事な

ことでした。

昔から塀の中の話は、話半分ではなくて、話一分で聞いておけという格言があるのですが、一分といえは一パーセントですから、これはまともに聞くな、ということでしょう。それほど懲役というものは、話に嘘が多いのです。

負けず嫌いの見栄っ張りで、その上随分と歪んで屈折した劣等感の強いのが揃っている懲役達ですから、三人も集って雑談をしていると、もうそれだけで限りなく嘘が流れ出して、工場や倉房の中を飛び交います。

話が面白ければ、嘘だってむしろ歓迎という、日本では珍しい所でした。

けど、それだけに嘘の程度と腕が問題にされるので、下手糞な嘘は、聞かされる者を不快にしますし、

「この程度の嘘で、通じる相手と思いやがって、舐めるなよ」

と、腹を立てさせることにもなります。

浮気をしての朝帰りの場面で、亭主がタクシーを降りてから、自分の家のドアまでの間に、ヒョイとお手輕に思いついたような嘘をつく、と、聞かされた女房殿が、なおさら顔をフラットにして、憤激するのと同じ理屈なのです。

嘘をつく時は、その場で思いついたようなのではなく、よく練りあげたのでなければ相手に失礼だし、お手輕ないい加減な嘘をつかれるのは、そんなほどの者と相手に思われているというこ

とですから、懲役も女房も怒るのでした。

だから、日本の政治屋や役人も、塀の中であんな口から出まかせ言ったら、余程腹をくくって開き直らない限り、腹を立てた懲役達に検事よりずっと鋭く追求されて、非道い目にあわされるのに違いありません。

腹をくくって開き直らない限り、というのは、塀の中ではどんな辻つまの合いかねるような嘘でも、ついた懲役が鋭い追求に対して、たったひと言だけ言い放てば、たいていの場合それはそれまでになつてしまうからです。

ついた奴が、腹をくくって目を吊りあげているのですから、あとは喧嘩をするしかありません。どんな怪しいことでも、ひと言、

「だって、俺、見たんだもん」

見た、とか、やった、とか言つた男は、その言葉に身体を賭けているのです。

たとえそれが殴り合いでも、当りどころや弾みで簡単に懲役が仏様に変ることを、何度も塀の中に来た連中はよく知っています。

どんなにお粗末で腕の悪い嘘でも、そうなると、それより先は追求する懲役だって、同じ危険を覚悟しなければならぬので、余程虫の居所が悪くなければ、それで終りになるのです。

そんな、塀の外とはまるで事情の違う塀の中なのですが、木工場に新人で落ちて来て組立に配役された稲葉春男は、三カ月も経たないうちに、あまりの嘘つきなのを皆に知られると、呆れ果

てられてしまったのです。

追求されても開き直ったりしないで、顔を紅潮させて口ごもるだけなのは可愛かったし、大きな嘘や他人に害になるような嘘はつかないのですが、とにかく口から出す言葉がことごとく怪しかったので、木工場の懲役は皆、あれは端から全部出鱈目に違いないと、カラタチにつく嫌な色の毛虫を見るみたいな目で、稲葉春男を見ました。

だいたい六月二十日が誕生日なのに、なにが春男だ、そもそも名前からして嘘なのだと、俳句に熱中している懲役が言ったのが、私には一番おかしかったのです。

北海道の旭川の在で大工をしているという稲葉春男は、恐喝で一年六月でしたが、高校は道立を出て北大の建築に入ったけど、二年の時に女子大生ふたりとの三角関係にもうひとりバーのママが参加した大混戦がこじれ、遂に退学になってしまったと言いました。

こんな話にしても、どうもパンを英語と信じて疑わない様子を見ては、面倒ですからやりこめもしませんでした。私にはこれもほほ嘘だと思われたのです。

大工が主な稼ぎだったけど、この頃では設計の方が多くなって、今度の刑も独創的なグルニエとやらの設計を無断で使われて……と言ったのは、これはすぐバレました。

組立で小針やダボを打っている間はよかったのですが、安物の二段ベッドの注文が大量に来て、その役席に応援に出されるとあえなくバレてしまったのです。

何か上手いことを言っただけ組立に戻ったのですが、板一枚削らなくても、その役席は指物師